

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	岡山大学
整理番号	B09
構 想 名	PRIMEプログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。</p>
(コメント)	
<p>本構想は、世界で活躍できる「実践人」の育成を目的に、学生が3基幹力（教養力、語学力、専門力）を3側面（異分野、異社会、異文化）で経験することにより、グローバル実践知を修得するPRIME（PRactical Interactive Mode for Education）プログラムを中核とする国際社会連携教育体制を全学展開する取組である。</p> <p>当初の計画に掲げていた「グローバルに通用するリベラルアーツ教育と語学力の育成」、「グローバル実践型教育の全学展開」、「国際社会に繋がる橋渡し専門教育」については順調に進捗していると言える。具体的な取組としては、グローバル人材育成特別コースの設置や英語力養成プログラム（SPAcE）、海外留学の必須化、11学部での26のプログラムや6研究科での8プログラムの実施、「国立六大学国際連携機構」及び省庁・企業等70機関が参加する「ミャンマー人材育成支援産学官連携ふらっとフォーム」の設立等が挙げられる。特に、特定の学部・学科に留まらず、全学を対象とする「グローバル・ディスカバリー・プログラム」を構築し、英語のみで卒業出来る「ディスカバリー専修トラック」と「学部・学科横断型マッチング・トラック」を設けた点や、医療工学分野の学部・大学院の設置準備を行っている点は評価に値する。また、学長を中心に改革に必要なマネジメント体制を構築し、これらの取組を通じて、ほぼ当初の計画に沿った取組が進んでいる点も評価出来る。</p> <p>一方で、全体的に大学院における数値目標の達成割合が低いことから、その原因分析と対応が必要である。また、高度実践人認定システムは良い取組と言えるが、今後は認定人数を増やすとともに、外部評価も取り入れた上で、より多角的かつ高度な評価システムを確立することが望まれる。</p> <p>本構想の目標である世界で活躍出来る実践人の育成を目指し、海外でのインターンシップを拡大するなど、より一層充実した取組を積み重ねていくことを期待したい。</p>	